

イノベーションに地道に取り組む
小さな会社の一年とちょっとした記録



アニュアルレポート
2022



UCILab. 合同会社



はじめに

会社について

UCI Lab. とは

メンバー

大切にしている3つのキーワード

プロセスについて

第1期（21.9 – 22.8）の活動

公開プロジェクト

地道に取り組むイノベーション

研修や露出実績など

おわりに



イノベーションをクラフトする。 わたしたちの未来をケアで満たすために。

私たち UCI Lab. は、2021 年 9 月に合同会社として設立されて無事に 1 周年を迎えることができました。企業内起業として 2012 年 9 月にチームが誕生してからは、実に 10 年の歳月が流れたこととなります。こうして無事に 2023 年を迎えることができるのも、これまでに様々な形で関わったり想っていたいた皆さまのおかげです。改めてお礼を言わせてください。ありがとうございます。

UCI Lab. 合同会社は、その名にあるように、UCI (User Centered Innovation)、つまり「生活者起点で新しい価値を創造し社会や生活の中で受け入れられること」を掲げ、クライアントの様々なイノベーションの試みを包括的に支援することを目的に誕生しました。私たちがプロジェクトに参画することで、開発する商品やサービスが少しでもユーザーの行為や気持ちに寄り添えるようにしたい。そのために、あらゆる局面での対話を大切にしています。そうして実現したいのは、金銭の交換や数値だけでは測れない、人々が互いをケアする気持ちや行為を中心にした新しい価値をつくること。私たちは、新事業開発のようなイノベーションこそ、何かのメソッドでスピーディに大量生産するのではなく、むしろ職人が素材や顧客と対話しながら手間暇をかけてつくりあげていくクラフトのようなプロセスで、地道に取り組むべきだと信じています。

私たちはメンバー 4 名の小さなラボ。その割に欲張って、この 1 年間もたくさんの活動をしてきました。一方で、限られたリソースの中では、それらの活動を、きちんとお伝えすることができずにいたのも事実です。でも、これから私たちは、自分達の実践をもっとひろくひらいていきたい、より多くの人に知ってほしいと願っています。そうして、自分達でも予想もしなかったような新しいつながりをつくり、自分たちを更新しつづけたいのです。

そこで、年に一度の大プロジェクトとして、この「アニュアルレポート」をまとめることにしました。ここには、私たちの今とこれからの、できる限りありのまま記述し公開したつもりです。

イノベーションにさえ効率化を求めてしまう忙しい社会で、私たちがクラフト的に関わることで、未来をもっとケアで満ちた人間味のある世界にしたい。2021 年 9 月、「マーケティングをケアリングへ」と宣言して法人設立した私たちは、この 1 年間で何をしてきたのか、これから何をしようとしているのか。もしこのレポートのどこかに、皆さんが共感したり興味を持っていただける箇所があれば、とても嬉しいです。



会社名

UCI Lab. 合同会社

業態

イノベーション・エージェンツ業

主な業務

クライアントのイノベーションに関わるプロジェクトの設計と実施

- ・定性調査（家庭訪問調査・IDI 調査など）、定量調査
- ・コンセプト創造
- ・事業戦略策定
- ・コミュニケーション戦略作成と具体的展開
- ・（プロセスにおける）ワークショップ など

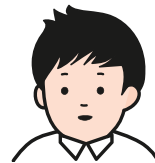
主なクライアント

メーカーなどの商品企画・研究開発・新事業開発部門

設立経緯

2012年9月 株式会社 YRK and 内の1チームとして誕生し、
2021年9月21日 グループ会社として独立分社化

メンバー



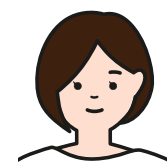
イノベーション
オーガナイザー



共感リサーチャー



デザイナー



バックオフィス

UCI Lab. のロゴは、
中心にいる生活者を起点にして、
多様な人々が対話的に協働することで、
新しい価値を結晶化するプロセスを
表現しています。



UCI = User Centered Innovation

(私たちが定義する)

イノベーション

新しい価値が創造されて、社会や生活の中で受け入れられること

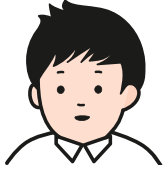
イノベーション・エージェント

ビジネスなどの現場で

「今までと違う考え方で新しい何かを生み出そうとする」ときに、
その組織にとって必要な支援をおこなう

UCI Lab. は、2017年に自分達のありたい姿を対話を通じて見える化した「envision」を策定し、その中で、チームに必要な役割を「まとめる人」「共感する人」「絵で話す人」「支える人」としました。

「まとめる人」
渡辺 隆史



代表・所長
イノベーションオーガナイザー

国際関係学部卒業後、マーケティングプランナー / リサーチャーとしてキャリアをスタート。社会人大学院での学びや縁をきっかけにメーカーの新事業開発の支援を開始し、2012年社内起業として UCI Lab. を立ち上げ。ラボでは司令塔的役割を担う。プロジェクトの引き出しを増やすために、不思議なアンテナを張り巡らせて、人類学や演劇など、様々な分野に越境し公私混同で独学・交流し仕事にしてみよう。多彩な方々との実践に巻き込む／巻き込まれることを通じて、ラボを学び続ける組織にしています。

著書として『地道に取り組むイノベーション』（共編著、ナカニシヤ出版）。

経営修士（専門職）、
事業構想大学院大学非常勤講師

「共感する人」
大石 瑤子

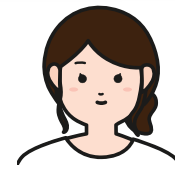


代表補佐・
共感リサーチャー

チーム内では共感リサーチャーとして主に生活者理解（定性調査など）を担当。人の心理やコミュニケーションに強い関心があり、大学ではエスノメソドロジー（相互行為論）を専攻、その後 NLP やワークショップデザイナーの資格を取得。学生時代は年間 100 本以上の映画を鑑賞、現在は 2 日に 1 冊ペースで小説を読む物語好き。インタビューも相手の環境や価値観、経験があらわれる物語として興味深く読み解いています。

全米・日本 NLP 協会認定マスタープラクティショナー、LAB プロファイルプラクティショナー、ワークショップデザイナー

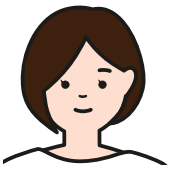
「絵で話す人」
田中 陽子



デザイナー

美術大学卒業後、印刷会社で DTP デザイナーとして勤務。製品カタログなどを担当する中でのづくりに興味を持ち、メーカーへ転職。服飾やシーズン雑貨の商品企画を約 7 年経験し、UCI Lab. へ。調査のアウトプットや概念の可視化、プロトタイピングの制作等を担当。DIY が趣味。2021 年に中古戸建を購入してから家のどこかを常に修理・工事していて、木くず・ペンキまみれの日々を送っています。現在は念願のウッドデッキをつくるため、基礎・土台を工事中。

「支える人」
松浦 はるか



バックオフィス業務・
リサーチアシスタント

外資時計メーカーや菓子メーカーなどでマーケティングを経験したのち、コンサルティングファームのリサーチ部門でアシスタントを経験。発信することよりチームを支えることに適性や喜びを感じていた頃、縁あって UCI Lab. へ参加しました。独立分社化を機にバックオフィス全般を担当することになり、日々、経理や労務の勉強に奮闘中です。趣味は 30 余年ゆるく続けている英語学習です。



生活者起点

対話的協働

ケア & クラフツ

生活者起点

対話的協働

ケア&クラフツ



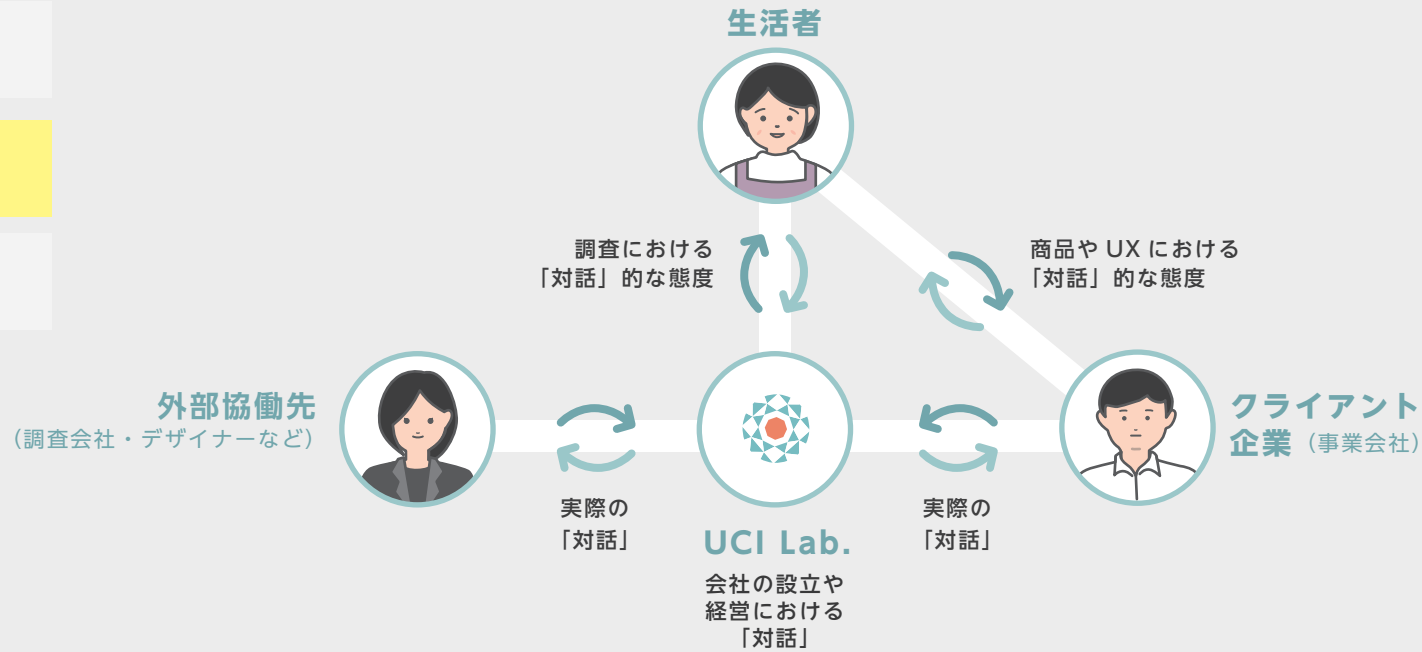
私たちの掲げる User Centered=生活者起点とは、使う人たちを主人公として捉えるということ。私たちは、その主人公が居る現場でドキュメンタリーのように寄り添い、**生活者から見える世界や経験する物語を、共感的にわかろうとすることを大切にしています。**もし生活者起点ではなく企業起点でプロジェクト側の仮説から始めてしまうと、生活者や現場を調査しても、知りたいことだけを聞き、見たい部分だけを見て、駒のように動

かそうとしてしまうかも知れません。**プロジェクトの出発点に生活者を迎え入れ、彼らからみた景色と取り巻くシステムを、まずは企業側が有りのまま受け止める。**そこから、主人公たちの経験がもっといきいきするための「地に足のついた問い」を立ち上げる。この順番をととても大切にしています。

生活者起点

対話的協働

ケア & クラフツ



私たちは、対話を平田オリザさんの説明などから「**お互いの違いを尊重しながら議論をすることで、全員が納得できる方向性を見出したり新しい答えを生み出したりするプロセス**」と定義しています。つまり、対話とは、自分自身の認識や行為の変容も伴う、ときにツラく面倒くさいものです。UCI Lab. では、これをあらゆる場面で実践しようとしています。いかにも対話的な生活者へのリサーチだけでなく、**プロジェクトやワークショップ**

プの設計や運営にも、プロトタイプの UX (ユーザー体験) や、最終的にそのイノベーションの提供価値にも、よい対話が成立してほしい。実は、私たちの組織内部でも、法人設立プロセスや日々の運営において対話的協働を実践しています。それは、いま注目されつつある「協同労働」という働き方にもつながっています。

生活者起点

対話的協働

ケア & クラフツ



ひとつひとつのプロジェクトを大切に、他ならぬそのフィールドと真摯に向き合い、**何度も試行錯誤し対話しながら、地道に何かをつくっていく。**それには、手法やツールの問題ではなく、**工房でのモノづくりのようなプロセスが大切**だと考えています。

これまでと同じ方法では生まれない価値を目指したはずなのに、気づけばイノベーションさえ効率的に量産しようとして、大きな構想が単に大味な

仕上がりになっている。そんな残念なことが起きていないでしょうか。企業側の都合でファストにつくられたペルソナやシナリオでは**抜け落ちてしまう「人間味」の部分**を、**私たちは互いを気遣い助け合うケアの倫理から満たしたい。**丁寧に時間をかけて、血の通ったイノベーションの実現を目指しています。



全体の企画設計

UCI Lab. では、あえてパッケージ化をしていません。個別のご相談に沿って、課題を対話的に整理し、最適な設計を行います。

プロジェクト導入

調査に入る前に、現状の企業側の認識や仮説をメンバー間で共有します。パイロット調査などから、ユーザー側とのズレの存在も可視化します。

共感醸成リサーチ

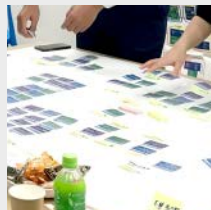
デプスインタビューやフィールドワークなどで「こちらが知りたいこと」以外の文脈まで含めて受け取ります。膨大な情報の中から根気強く解釈を重ねることで、地に足のついた問いを生成していきます。

アイデアの創造

問いに基づき、手を動かしたりアナロジーを用いることで、創造的に解いていきます。プロトタイプとしてモノや体験を見える化することで、生活者と対話を重ねながら進めます。

ビジネスモデル化

実証実験などを通じて、精度アップし価値体験の細部まで検討します。定量的な評価も含めて、企業の視点からも成立するよう事業計画を作成します。



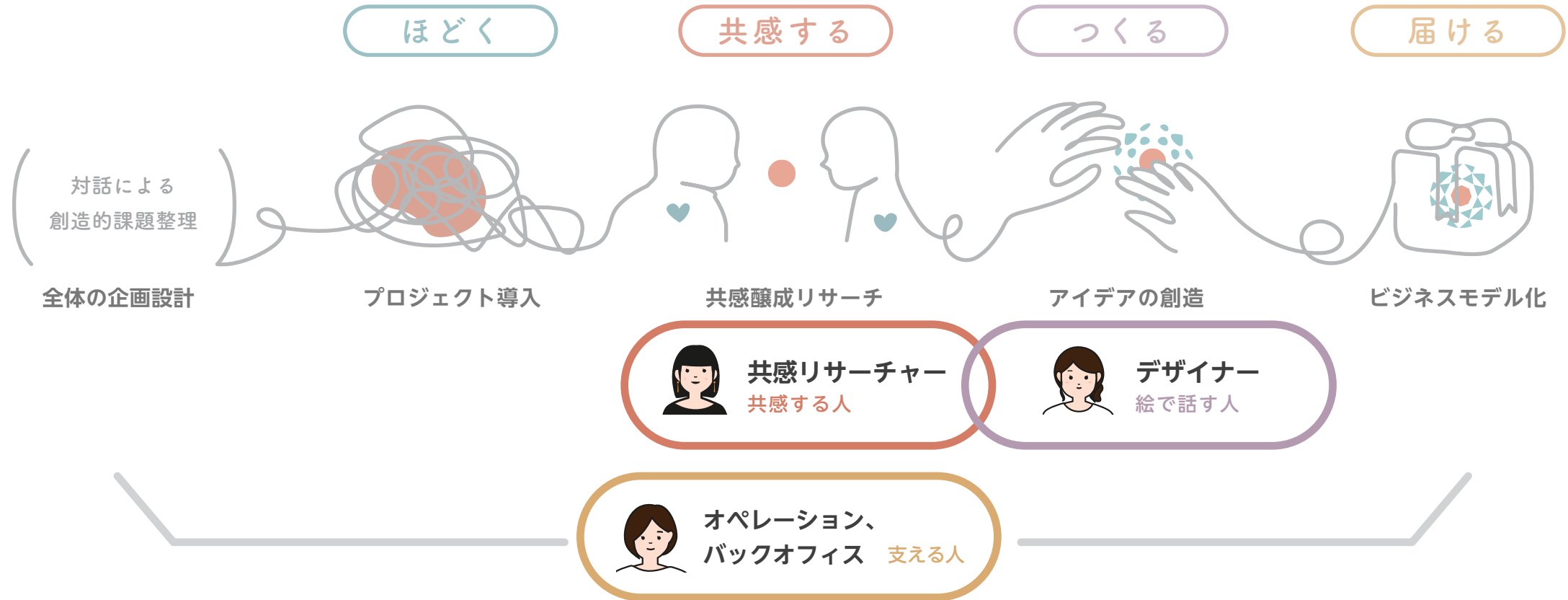
プロジェクトはワークショップを中心に進行します >>>

- ・ 1プロジェクトに6-10回を目安に実施されます
- ・ テーマや進捗に応じて都度設計し運用されます
- ・ お茶菓子が充実しています



イノベーションオーガナイザー
まとめる人

プロジェクト運営においては、計画通り進行しないことを歓迎し即興性を折り込んだマネジメントを基本としています。調査結果やプロトタイプへの反応を踏まえた、クリエイティブな意思決定はできる限り柔軟に。一方で、調査のオペレーションなどタスク運用は厳格に、要所ごとの企画構想でクオリティを担保しつつ、企業全体の意思決定プロセスなども考慮したバランスで運用。そして途中で遭難しないようにゴールまでマネジメントします。



UCI Lab. の業務は、クライアントの研究開発や新規事業に関わる秘匿性の高いプロジェクトのため、公開できるものは多くありません。そんな中でも、私たちの業務内容や姿勢を理解していただくために、公開可能な範囲の情報や自主プロジェクトなどを提示しています。

常時 4～8 件の
プロジェクトを同時進行
で進めています

2 年以上継続中
のプロジェクトも

第 1 期、9 つのプロジェクトに携わりました

10 年間の合計

定性インタビュー件数

974 人

毎回別内容！

ワークショップ

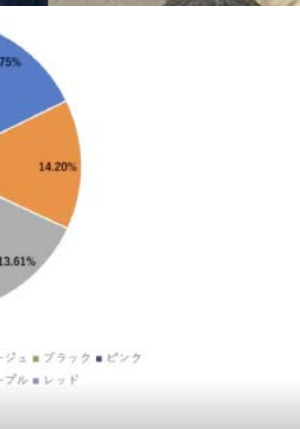
248 回

内 容

取引部門 新事業開発、商品企画、マーケティング など

テーマ コミュニティ、防災、リフォーム、医療、食育、シニア、Z 世代 など

開発対象 デジタルソリューション、サービスデザイン、
MR (Mixed Reality) 型コミュニケーション、家電 など



ネイビー	23
ブルー	21
ページェ	20
ブラック	18
ピンク	11
イエロー	10
オリーブ	6
オレンジ	2
ブラウン	2
パープル	1
レッド	1
sum	169



2020年～(現在)
タオル探求
プロジェクト



UCI Lab. が自らも対話的協働を通じて変容していくため、人類学者の比嘉夏子さんと取り組んでいるのが「タオル探求プロジェクト」。人々の生活に寄り添ったタオルの開発を目指しています。日常の一部としてどこにでもある「タオル」からイノベーションはどのように生まれるのか、生活者の家の中や今治のタオル工場へのフィールドワークを行い、さらにその皆さんを巻き込み続けるプロトタイプングなど、つかい手とつくり手をつなぐ対話的なプロセスを進めています。

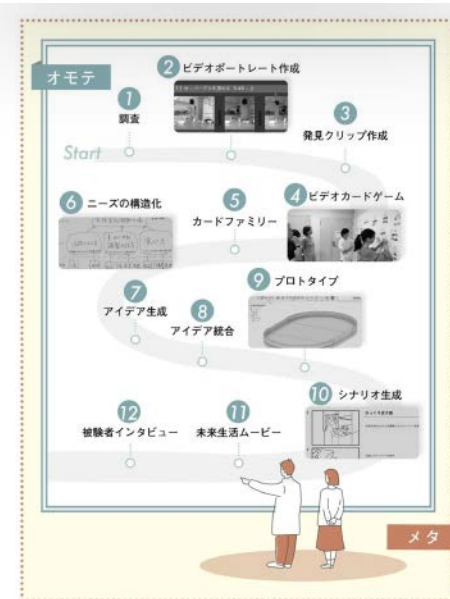
2021年～(現在)
避難所の衛生ストレス解決
プロジェクト



京都工芸繊維大学 デザイン・建築学系 櫛研究室と共同で創設した「ひとごこちデザインラボ」において、イノベーションとデザインの視点から避難所生活の質向上について貢献領域を模索したプロジェクトです。パナソニックくらしアプライアンス社が全面的な技術協力として参加。被災者・支援者に対するインタビューや対話などのフィールドワークを行い、学生と共にプロトタイプングを製作し、その途中成果を記者会見を行い発表しました

▶<https://note.com/hitogokochi>

2020年
「つくるをわかる」
プロジェクト



日頃説明が難しい「つくる：アイデアやコンセプトの創造」を言語化する試みを、京都工芸繊維大学 櫛研究室と共に実施。リサーチからアイデアがカタチになる過程を参与しながら観察し、そのプロセスを丁寧に振り返ることでわかったのは、ユーザーの現場と応答しあいながらつくり上げていく、大工の職人仕事（クラフト）のような、柔軟な進め方や細部への真摯さこそが、アイデアの精度を向上させるということ。この「クラフト」は私たちが大切にしているキーワードの一つになっています。

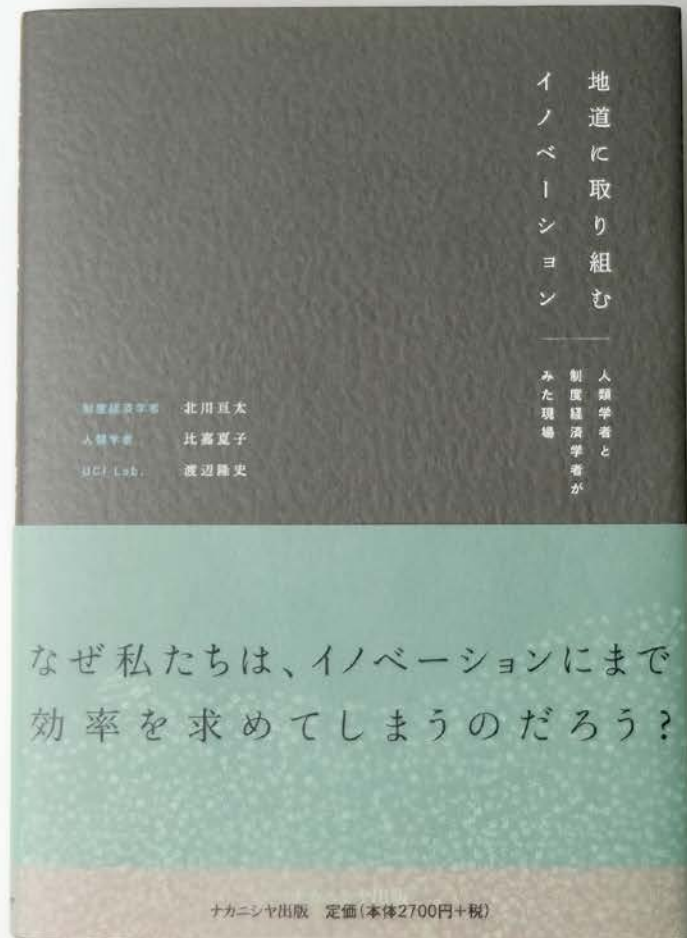
▶<https://note.com/ucilab/m/mdfe5c22ffe38>

2018年
「ジャカルタにおける食と健康」
リサーチプロジェクト



インドネシアでの現地調査を通じて、UCI Lab. がビジネスの中で生活者を深く理解するために行うアプローチと、人類学者の比嘉夏子さんがアプローチを比較しあうプロジェクトを実施しました。生活についてでも専門分野についてでも、「他者」を理解することは、当たり前ですが膨大な時間と胆力が必要です。UCI Lab. では、このようなフィールドワークによるわかりかたについても、様々な方々と協働を重ね、研究を続けています。

▶<http://www.ucilab.net/>



地道に取り組むイノベーション

—人類学者と制度経済学者がみた現場

ナカニシヤ出版 2020年10月

2022年6月
重版!

UCI Lab. の実践を題材に、今日のイノベーションの現場を、
所長の渡辺隆史と人類学者の比嘉夏子、制度経済学者の北川巨太という
立場の異なる著者3名がエスノグラフィックに記述し、
対話的に思索した野心的著作

イノベーションという言葉の響きからは、斬新で綿密な事業計画，カラフルなオフィスや活発なブレイン・ストーミング，何か降りてくるような気づきの瞬間といった華やかで知的な印象が付きまとう。しかし，実際の現場でなされていることは，その都度訪れる新たな局面に対して，立ち止まって静かに思索し，ねばり強く対話を続ける地道な営みではないだろうか。本書では，そういった決して洗練されていない側面にこそ光を当ててみたい。

(本書「まえがき」より)

研修

2021年10月・12月 パナソニック エレクトリックワークス創研株式会社
「新需要創造のための商品企画—共感編」「—コンセプト編」研修講師（渡辺・大石）

2021年10月 パナソニック エレクトリックワークス創研株式会社
「顧客視点の事業創造 WS『共感リサーチの理論と実践』」研修講師（渡辺・大石）

2022年4月 事業構想大学院大学 大阪校
「SDGs×大阪・関西万博 TEAM EXPO プロジェクト研究」ゲスト講師

2022年6月ー9月 事業構想大学院大学 大阪校「フィールドリサーチ」授業 非常勤講師

2022年10月・11月 パナソニック エレクトリックワークス創研株式会社
「新需要創造のための商品企画—共感編」「—コンセプト編」研修講師（渡辺・大石）

登壇

2022年1月 X デザイン学校公開講座
「大人の自由研究のはじまりかた—〈タオル探究プロジェクト〉を事例に」

2022年3月 UCI Lab. 主催
「タオルを対話でイノベーションできるのか？— UCI Lab. のプロセスをひらく —」

2022年6月 日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会 第43回 定期全国総会 発言

2022年12月 主催 一般社団法人日本社会連帯機構・東京中央支部、
共催 日本労働者協同組合連合会センター事業団東京中央事業本部 UCI Lab. 合同会社
「労働者協同組合法施行記念・中央区フォーラム 『当事者研究』と『協同労働』
から学ぶ—新しい仕事や組織のカたち」

書籍掲載

2022年4月「協同の発見」一般社団法人協同総合研究所発行（寄稿）

2022年5月「労務事情 No.1448」（インタビュー）

2022年10月「協同労働入門」産労総合研究所出版部経営書院（インタビュー）

新聞・Webメディア

2022年7月「避難所の衛生ストレス解消へ「風の洗濯機」など 京都工芸繊維大学の学生が試作品」
Yahoo ニュース

2022年7月「デザイン・建築学系 榎勝彦教授らが「避難所の衛生ストレス解決プロジェクト」の
中間報告会を行いました」京都工芸繊維大学

2022年8月「避難所の衛生守れ 我ら考案」京都新聞
2022年8月「避難所の衛生ストレス解決へ」電波新聞

2022年9月「社会を変える 新たな働き方④」日刊工業新聞

2022年11月「役割としての「共感」を、見つめなおす」メッシュワークラジオ
合同会社メッシュワーク（大石）



(表紙について)

「野点プロジェクト」のこと

UCI Lab. が無事に第 1 期を終えようとする頃。私たちは「場のあり方」について考えていました。

基本 100% 在宅ワークの私たちは、どこかにワークショップなど人を集める拠点をつくるのではなく、むしろどこでも UCI Lab. らしい空間を立ち上げることができた方が良いのではないかと。そこで、茶道の世界から着想を得て、持ち運べるおもてなし道具一式をクラフトしようとしたのが「野点 (のだて) プロジェクト」。とても光栄なことに、スウェーデン在住のソーイングデザイナー オルソン恵子さんに依頼を快諾いただき、彼女の素敵なクロスと、UCI Lab. の田中陽子の DIY による一点ものの力作が、丁寧な対話的協働の末に完成しました。これから、様々な景色と人の力を借りながら、あちこちで居心地の良い対話の場を生み出していくことでしょう。

そして、野点プロジェクトに完成はありません。私たち自身が歩み変容していく中で、野点のしつらえもまた変化し充実し続けるはず。それは、私たちが日々のプロジェクトにおいて目指すケアやクラフトのあり方と同じで、終わりのない運動の体現のひとつでもあります。

面倒な調査をして、粘り強く対話をして、手間のかかる体験をつくりだす。でもそれが、今こそ求められている豊かな経験につながることを、私たちは信じています。

地道に取り組み続ける UCI Lab. を、2023 年もどうぞよろしくお願いいたします。

UCI Lab. さま

この度は素敵なオーダーをいただき、ありがとうございました。今回のクロスは、スウェーデンのダーラナ地方の工芸品「ダーラハスト」柄の生地に、同じ地域で生産されている伝統的な織りポンを合わせました。北欧のクラフトマンシップは、UCI Lab. さまのコンセプトにも共鳴するところがあり、今回のオーダーで、日本とスウェーデンの何か小さな架け橋になれましたら、私も嬉しく思います。

オルソン恵子さんより

<https://keikoolsson.com/>

お問い合わせ

contact@ucilab.co.jp



UCILab. 合同会社